

西 關 大 學 學 生 新 聞

行 發 編 輯 人 國 印 本
所 行 發 學 西 關
部 聞 生 大 學
區 川 淀 東 市 阪 大

祝 新 入 學

一 專 門 部 一 部 一
關 西 大 學 生 活 部 部

現 代 英 詩 の 動 向

片 岡 甚 太 郎

詩は詩人の外界への反響であり、また詩人の個性によつて外界に賦與される言葉の音楽である。その技巧の變化は、歴々彼等にとつて極めて不從順な材料との觸發に於ける詩人の個性に起因するばかりでなく、廣く全的に、社會的、知的環境の變遷に由來するものである。現代英詩の母胎もまた、かく考へて來ることによつて始めて、その正確な把握が可能である。

われわれは「懷手」論法といふ表現を用ひることがある。その意味は、われわれは、われわれを超越することなしに「われわれ」を論ずることが出来ないことを述べてあるところにある。「懷愛」を必要とするのである。

さて、現代の世界は神の寵愛を離れて、科學の恩寵に生きてゐるのだと言はれる。その意味は、過去の神聖の世界が反古となつて、新しい科學的合理主義が我々の生活の上に君臨してゐる事である。十八世紀に全世界を風靡した浪漫主義は、自然崇拜と人間禮讃とが特徴として來た社會秩序の崩壊を、爲に強固の役割を果たさうとして出現したものであつた。そしてそれが十九世紀まで榮華を得た所以のものは、前世紀とは逆で、自然對人間の對立の上にある存在を可能ならしめられて來た。ラスキンが「感傷の保護」と呼んだ萬々情論が、この十九世紀の浪漫主義の内容を十二分に證明してゐる。しかしながら、科學的世界觀がその專用商標である

この現世紀が、果してそのParnassusの山を擧げて、明瞭科學の世界を現出したのであらうか。事實は、さうではなかつたのである。そこに人類の宿命があり、暗翳に於ける詩人の個性に起因するばかりでなく、廣く全的に、社會的、知的環境の變遷に由來するものである。現代英詩の母胎もまた、かく考へて來ることによつて始めて、その正確な把握が可能である。

われわれは「懷手」論法といふ表現を用ひることがある。その意味は、われわれは、われわれを超越することなしに「われわれ」を論ずることが出来ないことを述べてあるところにある。「懷愛」を必要とするのである。

さて、現代の世界は神の寵愛を離れて、科學の恩寵に生きてゐるのだと言はれる。その意味は、過去の神聖の世界が反古となつて、新しい科學的合理主義が我々の生活の上に君臨してゐる事である。十八世紀に全世界を風靡した浪漫主義は、自然崇拜と人間禮讃とが特徴として來た社會秩序の崩壊を、爲に強固の役割を果たさうとして出現したものであつた。そしてそれが十九世紀まで榮華を得た所以のものは、前世紀とは逆で、自然對人間の對立の上にある存在を可能ならしめられて來た。ラスキンが「感傷の保護」と呼んだ萬々情論が、この十九世紀の浪漫主義の内容を十二分に證明してゐる。しかしながら、科學的世界觀がその專用商標である

たのである彼等は都市の陋俗と感傷の惡毒とを暴露し、ジョージ・クルア以来中絶してゐた社會悲劇を再び明るみに持ち出したのであつたが、彼等は、その重疊の處理に力足らずして、多くの自己撞着に陥り、世界的感情の香白化を招來し、自己撞着的苦行者と化して悶絶するに至つたのであつた。

このデカダン派の代表者は、アーネスト・ドワソン、とアール・サ・シモンズ、とであつたが、彼等の功績としては、その行き詰りが血路を外國文學に向けさせた。それを擧げることによつて文學の島嶼性を破棄した點が擧げられるべきであらう。

悲觀の重疊は樂觀への轉向によつて軽減されることは言はれたところであらう。かくして風に生の喜悅を叫んでブレイト、ロゼツタイと、後のデ・ラ・メアとの橋渡しをなしたアール・エル・ステイブンスンがあり、印象派の手法の長所を藉りて、詩の解放を叫んだヘンリーがあり、前國主義と愛國主義とを謳歌したキップリングがあり、また當時影響として混濁してゐた懷愛主義・印象主義地方主義・愛國主義を併せ呑んで新しい詩の技法に熟練したジョン・ダウソンがあつた。

この外ニール・ポルト、トッパ、ブルントと言つた人達も此の殖に屬してゐたが、何れも所謂「學者詩人」と呼ばれたワトソン、ブリヂス、ビンヨンなどがミルトン、ワーズワス、テニスンによつて守られて來た英詩の傳統を擁護することに眞向から反抗して來た人々であつた。世界觀の相異であり、相違である。

かうした二大潮流から、或は孤立し或は押し流された個人作家で有名名人達として、一は、アイランド文藝の復興家として我國にも廣く知られてゐるイニエツでも同じく見神論者として知られてゐるエイ・イー・であり、又子供の世界と主觀的感性に世紀

の救ひを求めんとした童詩集「孔雀の饗宴」の作者デ・ラ・メアであつた。その第二はロゼツタイ、ペーター・張りの「永遠の感情」を固守したボタムリイであり、悲觀派の影射のもとに貧困と勞働の悲劇を抉出して成功を収めたマセアイルド、ギブソンであつた。其第三は、生の喜悅を田園に求めて所謂地方文學を高唱したハーディー、キプリング、ハウスマン、イニエツ、ドリング、オスター、ブルツク、ボタムリイ及びギブソンであり、その第四は、かうした諸潮流を併せて其上に新しい浪漫的な自然主義を樹立したシイ・ジェムス・ステファン、シイ・ジョーンズ、スカイヤ、及び前出のブルツク等であつた。

然しながら此の時、招かれざる來訪者の大戦は、詩人の棲息する大地の根柢を、その根柢から震動せしめたのであつた。前の印象派に對する後期印象派、立體派、未來派の擧出したのも此時であつた。大戰の大槓は、英詩壇を揺動して世界主義の坳場の中に追ひやり知識階級の不安を増大し、英國の國情は順に歐化の一途を辿るの結果となつた。未來派は機械の恐怖の刺戟として生れたものであつたが、偶々かうした憂鬱の中に在るや、1908年に創立されて以來健やかな發達を遂げてゐた「詩人クラブ」なるものがあつた。その中心が「心象」像重に在つたところから、心象派なるものが大きくクローズアップされたのであつた。この創設者は大戰で戦死した、イニエツ、ヒルムンであつたが、其詩論が我國の短歌と俳諧の技法に出發してゐるのも、この點が、題材の直接性、表現の經濟、有機的韻律等の點に重きを置くことによつて詩の技巧の革新を企圖したのであつた。この傘下に馳せ參するもの英國人ではエフ・エス・フリント、リチャード・アルディントン、二人、米國人ではエズラ・パウンド、エ

イ・デー（ヒルダ・ドーリット）、アミイ・ロウエルの三人であつたが、この團體の早期の解散（1915年）にも拘らず後々の詩人にも絶對的大變化を及ぼした點に於て極めて大いなる意義を持つものである。

彼等の多くはフランスの耽美派、象徴派及び特に自由運動の影射を受け、且つフロイド以後の自己分析と、社會批評とによる理論的構成を以てその手法となしたと同時に、一方ギリシア古典の明晰性を取り入れることによつて「詩の幻滅」を救はうとしたのであつた。

しかし彼等の凡てがかくの如く建設的であつたのではなかつた。例へば前述のフレンド思想は一面文學上の無責任主義を招來し、強ひて「安定」を求めんとして、懷古的な前時代的な、そして浪漫主義的な調子のなサスンとかオウエとかの如き戰爭詩人や復古的な民族の傳統的韻律に復歸しようとしたフリーマン、ハドソン、アスカイス、グレンフェル、フリツカイ、ビンヨン及びオスバートス、イッウエルなどの出現を見たのであつた。

しかし戰爭の終結（1918）は、之ら退潮の波を忽ち一掃し去つて、新しい諷刺詩による論客が擧出した。所謂「群生詩」の出現は、かうした事情に依るのである。それらの詩人達は、凡そ三つに別けて述べることが出来る。そしてその三つの大きな流れが英詩壇の三大動脈であると考えることが出来るのである。

その第一は、「ワイルド派」(The Wild)の名によつて知られてゐるエドス・スウィツェル、派の人達である彼等の二兄弟オスバート、サチャベルの外、カンロード、エイ・ジェイムス、ツリ、ロイヤム、エス・ボインズ、ボーター等の人々が之に参加し、其攻撃的目標は浪漫派の傳統的韻律であつた。彼等の主張する處は立體派の手法の如き「韻律機械」の活用であり、怪奇な文體であり「團體の死」を想はせるやうな取材であつた。この派には所屬しなかつたけれども、カンパベル、ウラルフなども略々同様の主張をなした人々である。

その第二は、哲學的詩人の一群である。それらはリード、ローレンス、エリオットの三人であるが前の「車輪派」と異なるところはこの三人が一つの主張に關與してゐるのではなく、各々自説に邁進して他を顧みない點である。

此中ハーバート・リードは時代の詩的渴望を十七世紀の「哲學的詩人」の息吹によつて救はんとして、世界の統一原理を生死を超越した宇宙的非個人的全體性の中に求めその思想は内省的であり、表現は抽象的である。彼は所謂「オックスフォード運動」の一員であり、古い信仰の上に、新しい心象と韻律の實踐を強行して偉大な偉大な詩人の一人である。デー・エツチ・ローレンスは今は故人であるけれども、その獨斷的人生論と性的哲學と多産の宗教とはよかれ悪しかれ彼をして古來希に見る消極的詩人たらしめたのであつた。

この二人が共に外界への反響の中に詩のモチーフを求めたのに對して、デー・エス・エリオットは、アノルドの影射のもとに、「懺悔へ還れ」と叫ぶ救世主の如き詩人である。彼は夙に大陸に於けるカトリシズムの歴史の意義に沈潜し一つの全體主義による個人主義の矯正を詩の最高目的とした。懺悔と懺悔とが彼の詩の樞軸でありその手法は象徴的、神秘的、詩的、哲學的、詩人としてのその手法は象徴的、神秘的、詩的、哲學的、詩人としてのその手法は象徴的、神秘的、詩的、哲學的、詩人としての

さて、現代の世界は神の寵愛を離れて、科學の恩寵に生きてゐるのだと言はれる。その意味は、過去の神聖の世界が反古となつて、新しい科學的合理主義が我々の生活の上に君臨してゐる事である。十八世紀に全世界を風靡した浪漫主義は、自然崇拜と人間禮讃とが特徴として來た社會秩序の崩壊を、爲に強固の役割を果たさうとして出現したものであつた。そしてそれが十九世紀まで榮華を得た所以のものは、前世紀とは逆で、自然對人間の對立の上にある存在を可能ならしめられて來た。ラスキンが「感傷の保護」と呼んだ萬々情論が、この十九世紀の浪漫主義の内容を十二分に證明してゐる。しかしながら、科學的世界觀がその專用商標である

たのである彼等は都市の陋俗と感傷の惡毒とを暴露し、ジョージ・クルア以来中絶してゐた社會悲劇を再び明るみに持ち出したのであつたが、彼等は、その重疊の處理に力足らずして、多くの自己撞着に陥り、世界的感情の香白化を招來し、自己撞着的苦行者と化して悶絶するに至つたのであつた。

このデカダン派の代表者は、アーネスト・ドワソン、とアール・サ・シモンズ、とであつたが、彼等の功績としては、その行き詰りが血路を外國文學に向けさせた。それを擧げることによつて文學の島嶼性を破棄した點が擧げられるべきであらう。

悲觀の重疊は樂觀への轉向によつて軽減されることは言はれたところであらう。かくして風に生の喜悅を叫んでブレイト、ロゼツタイと、後のデ・ラ・メアとの橋渡しをなしたアール・エル・ステイブンスンがあり、印象派の手法の長所を藉りて、詩の解放を叫んだヘンリーがあり、前國主義と愛國主義とを謳歌したキップリングがあり、また當時影響として混濁してゐた懷愛主義・印象主義地方主義・愛國主義を併せ呑んで新しい詩の技法に熟練したジョン・ダウソンがあつた。

この外ニール・ポルト、トッパ、ブルントと言つた人達も此の殖に屬してゐたが、何れも所謂「學者詩人」と呼ばれたワトソン、ブリヂス、ビンヨンなどがミルトン、ワーズワス、テニスンによつて守られて來た英詩の傳統を擁護することに眞向から反抗して來た人々であつた。世界觀の相異であり、相違である。

かうした二大潮流から、或は孤立し或は押し流された個人作家で有名名人達として、一は、アイランド文藝の復興家として我國にも廣く知られてゐるイニエツでも同じく見神論者として知られてゐるエイ・イー・であり、又子供の世界と主觀的感性に世紀

の救ひを求めんとした童詩集「孔雀の饗宴」の作者デ・ラ・メアであつた。その第二はロゼツタイ、ペーター・張りの「永遠の感情」を固守したボタムリイであり、悲觀派の影射のもとに貧困と勞働の悲劇を抉出して成功を収めたマセアイルド、ギブソンであつた。其第三は、生の喜悅を田園に求めて所謂地方文學を高唱したハーディー、キプリング、ハウスマン、イニエツ、ドリング、オスター、ブルツク、ボタムリイ及びギブソンであり、その第四は、かうした諸潮流を併せて其上に新しい浪漫的な自然主義を樹立したシイ・ジェムス・ステファン、シイ・ジョーンズ、スカイヤ、及び前出のブルツク等であつた。

然しながら此の時、招かれざる來訪者の大戦は、詩人の棲息する大地の根柢を、その根柢から震動せしめたのであつた。前の印象派に對する後期印象派、立體派、未來派の擧出したのも此時であつた。大戰の大槓は、英詩壇を揺動して世界主義の坳場の中に追ひやり知識階級の不安を増大し、英國の國情は順に歐化の一途を辿るの結果となつた。未來派は機械の恐怖の刺戟として生れたものであつたが、偶々かうした憂鬱の中に在るや、1908年に創立されて以來健やかな發達を遂げてゐた「詩人クラブ」なるものがあつた。その中心が「心象」像重に在つたところから、心象派なるものが大きくクローズアップされたのであつた。この創設者は大戰で戦死した、イニエツ、ヒルムンであつたが、其詩論が我國の短歌と俳諧の技法に出發してゐるのも、この點が、題材の直接性、表現の經濟、有機的韻律等の點に重きを置くことによつて詩の技巧の革新を企圖したのであつた。この傘下に馳せ參するもの英國人ではエフ・エス・フリント、リチャード・アルディントン、二人、米國人ではエズラ・パウンド、エ

イ・デー（ヒルダ・ドーリット）、アミイ・ロウエルの三人であつたが、この團體の早期の解散（1915年）にも拘らず後々の詩人にも絶對的大變化を及ぼした點に於て極めて大いなる意義を持つものである。

彼等の多くはフランスの耽美派、象徴派及び特に自由運動の影射を受け、且つフロイド以後の自己分析と、社會批評とによる理論的構成を以てその手法となしたと同時に、一方ギリシア古典の明晰性を取り入れることによつて「詩の幻滅」を救はうとしたのであつた。

しかし彼等の凡てがかくの如く建設的であつたのではなかつた。例へば前述のフレンド思想は一面文學上の無責任主義を招來し、強ひて「安定」を求めんとして、懷古的な前時代的な、そして浪漫主義的な調子のなサスンとかオウエとかの如き戰爭詩人や復古的な民族の傳統的韻律に復歸しようとしたフリーマン、ハドソン、アスカイス、グレンフェル、フリツカイ、ビンヨン及びオスバートス、イッウエルなどの出現を見たのであつた。

しかし戰爭の終結（1918）は、之ら退潮の波を忽ち一掃し去つて、新しい諷刺詩による論客が擧出した。所謂「群生詩」の出現は、かうした事情に依るのである。それらの詩人達は、凡そ三つに別けて述べることが出来る。そしてその三つの大きな流れが英詩壇の三大動脈であると考えることが出来るのである。

その第一は、「ワイルド派」(The Wild)の名によつて知られてゐるエドス・スウィツェル、派の人達である彼等の二兄弟オスバート、サチャベルの外、カンロード、エイ・ジェイムス、ツリ、ロイヤム、エス・ボインズ、ボーター等の人々が之に参加し、其攻撃的目標は浪漫派の傳統的韻律であつた。彼等の主張する處は立體派の手法の如き「韻律機械」の活用であり、怪奇な文體であり「團體の死」を想はせるやうな取材であつた。この派には所屬しなかつたけれども、カンパベル、ウラルフなども略々同様の主張をなした人々である。

その第二は、哲學的詩人の一群である。それらはリード、ローレンス、エリオットの三人であるが前の「車輪派」と異なるところはこの三人が一つの主張に關與してゐるのではなく、各々自説に邁進して他を顧みない點である。

此中ハーバート・リードは時代の詩的渴望を十七世紀の「哲學的詩人」の息吹によつて救はんとして、世界の統一原理を生死を超越した宇宙的非個人的全體性の中に求めその思想は内省的であり、表現は抽象的である。彼は所謂「オックスフォード運動」の一員であり、古い信仰の上に、新しい心象と韻律の實踐を強行して偉大な偉大な詩人の一人である。デー・エツチ・ローレンスは今は故人であるけれども、その獨斷的人生論と性的哲學と多産の宗教とはよかれ悪しかれ彼をして古來希に見る消極的詩人たらしめたのであつた。

この二人が共に外界への反響の中に詩のモチーフを求めたのに對して、デー・エス・エリオットは、アノルドの影射のもとに、「懺悔へ還れ」と叫ぶ救世主の如き詩人である。彼は夙に大陸に於けるカトリシズムの歴史の意義に沈潜し一つの全體主義による個人主義の矯正を詩の最高目的とした。懺悔と懺悔とが彼の詩の樞軸でありその手法は象徴的、神秘的、詩的、哲學的、詩人としてのその手法は象徴的、神秘的、詩的、哲學的、詩人としての

や、懺悔に流れた感嘆はあるが要するに英詩は現世紀に至つて眞の科學的洗滌を受け、夢の祭壇を去つて現實の塵に坐し、詩材は民衆熟知の事物より擷はれるに至り詩形はその無用の桎梏を脱脚した。架空の浪漫主義は擯棄されて新しい知性が發揚し、萬般の社會意識を處理するの任務を背負ひ立つこととなつた。一見復古的に見えるカトリシズムの全體主義、十七世紀的哲學主義、古代英語時代へのアクセントに依るリズムの採用が殘された唯一の新理想への欲き門であつた。詩はいつにも胎動を續けてゐたのだつた。詩はやはり「不死鳥」であつたのである。(一一、二九)

(活字の都合で英字名を全て假名に代へた事を御承知下さい)

新 入 生 に 與 ぶ

聖戰下三年を迎へ我國の或は眞理の爲の眞理なる現政治、經濟は今や一大轉換期に直面し、斯かる時代の變革に於ては、過去の科學藝術文化一般に亘り新しき飛躍が要請せられる。

斯かる新しき時代の前後とも云ふべき今日、本學に入學せし諸兄は在來の學生と異なる新しき自覺を持たねばならぬ。即ち發奮して本學に學ぶ諸兄は當ての學生の口をせし眞理探求の自由を或批判を以て阻まねばならぬ。

平時に於ける學生の態度と戰時に於ける學生のそれとは當然大きな相違點を有つ。學生が智識階級の確たる地位を占める理由は彼らが其の時代の文化的指導性を有つと云ふ一點にかゝつて居る。

吾人は何時如何なる狀態の本に於て此の重大使命は降し、時を機がせしむべきではない。即ち現今に於て國家權力は戰爭遂行の一大目的達成の爲吾人の一大關心事たる思想性批判の自由を極度に制限する。

斯くて吾人は今後の研究の新しき立場を持たねばならぬ。即ち過去の學生は眞理探求の自由を旗印とし彼らの所謂象牙の塔に引籠り多分に社會との接觸を忘れた一人より一羽の「不死鳥」であつたのである。(一一、二九)

斯くの如き態度に於ける眞理探求が勢ひ空襲理論の遊

或は眞理の爲の眞理なる現政治、經濟は今や一大轉換期に直面し、斯かる時代の變革に於ては、過去の科學藝術文化一般に亘り新しき飛躍が要請せられる。

斯かる新しき時代の前後とも云ふべき今日、本學に入學せし諸兄は在來の學生と異なる新しき自覺を持たねばならぬ。即ち發奮して本學に學ぶ諸兄は當ての學生の口をせし眞理探求の自由を或批判を以て阻まねばならぬ。

平時に於ける學生の態度と戰時に於ける學生のそれとは當然大きな相違點を有つ。學生が智識階級の確たる地位を占める理由は彼らが其の時代の文化的指導性を有つと云ふ一點にかゝつて居る。

吾人は何時如何なる狀態の本に於て此の重大使命は降し、時を機がせしむべきではない。即ち現今に於て國家權力は戰爭遂行の一大目的達成の爲吾人の一大關心事たる思想性批判の自由を極度に制限する。

斯くて吾人は今後の研究の新しき立場を持たねばならぬ。即ち過去の學生は眞理探求の自由を旗印とし彼らの所謂象牙の塔に引籠り多分に社會との接觸を忘れた一人より一羽の「不死鳥」であつたのである。(一一、二九)

斯くの如き態度に於ける眞理探求が勢ひ空襲理論の遊

御親の閣

榮に浴す

現役將校配屬令公布

大正十四年陸軍現役將校配屬令が公布され、軍事教練が實

大正十四年陸軍現役將校配屬令が公布され、軍事教練が實に浴す、全國學生に對し戦時下の學校教練振興のため五月二十二日

教授移動の發表に

多大の期待を

學内刷新の勢は居る折、學校當局では教授の新陣容と向部長、學生主事の移動を發表し、全學生の注目を集めて居る。

- 本莊鐵次郎 教授
大山 教授
任期満了に付法文部部長を免す
教授 木村 健助
教授 本莊鐵次郎
任法文部部長

清磨呂公奏神教圖

謹寫特に許さる

本學卒業生、戦車田田英博士の神教圖により、この度清磨呂公の神教圖を特許された。清磨呂公は平沼首相に電を出された岡山縣出身の高見秀麿博士に依頼中、この神教圖完成を見るに至った。

二重橋廣場にて
新學期を踏み出すにあたり、多大なる期待が此の移動に掛けられてある。

- 任法文部部長 加藤金次郎
教授 中谷 敬壽
教授 加藤金次郎
任學生主事 西村 信雄
任法文部部長 賀來 俊一
任教授 八島 治一
任教授 西村勝太郎
任教授 西村勝太郎
任教授 西村勝太郎
任教授 西村勝太郎

文藝部

- 雜誌部
俳句部
映研部
劇研部
(當部)

關大文化振興運動へ五部の態勢

關大文化の振興は、數年來十指によつて指され来た所であり、その振興も幾度か語られたが、何れも具體的な形を作らず立ち消えになつて居た所此の四月、五部協同の約が成り、關大文化振興運動へ協同の形になつた。

校友會設立準備の

その後

去る一月第一回校友會設立準備委員會が開かれた(本紙既報)。吾々一部專門部學生の卒業後の親睦と母校發展を計るべく設立準備が進められて来た。即ち

忠魂碑へ

荒木大將の揮毫

千早山校庭に建設せられる忠魂碑に對し、かねて荒木大將大將へ依頼中の揮毫「忠魂碑」の大文字が出来上り、大將より本學へ贈られた。忠魂碑の面上に大將の文字を仰ぐ日も、さして遠くはないであらう、千早山上に忠魂碑が安かれ

明大繪内氏來訪

東西學生新聞聯盟提携なるか
關大新聞學會設立に多大の示唆

時局益々重大の時、學生言論界の最高機關たる學生新聞の使命が再認識されつゝある時、去る四月二十日明治大學新聞學會(駿臺新報)特派員内藤氏は、關西學生新聞界聯繫の途に本學に來訪され、設立に多大の示唆を得た。

目されて居る。

關大新聞學會...

學友會部劃當の範圍にも負けず、十二月中旬には一回の公費を持つ度いと計畫中である。此の計畫の進捗しやういふ點は公費の用出らしく、之さへ可能になれば十二月中旬には開演ひなく公費を持つ筈である。その間「關大新聞」の「活版法の練習」一部員脚本批評會「觀劇會」「觀劇の座談會」等を行ひその閑々に公費費

スーユニチツレカ

關西大學學部：清新の氣満
千早山校庭
任期満了となつた法文、經濟兩學部長改選さるる法文中に中谷壽教授、經濟部教授、經濟部教授、經濟部教授

教練課

峯先生應召

十三年十月就任以來温情を以て全學生を指導されて来た峰澤野先生、此の度晴の令狀に接せられ勇退願ひ〇〇〇に入隊せられる事になつた。〇月〇日全學生は、學生大會を開き、同じく出陣せられる教務課神吉氏の應召をも祝し翌二十九日梅田驛頭で峰先生を盛大に歡送した

編輯

満餘

★本號は期せずして專攻學科の記事を得られず文學新聞の感があるが、常に抽象の世界に遊ぶ青年學生が直觀の世界を顧みて悲しい法はない、その意味でこれら亦一つの試みとして許されたい

大同書院刊

好評叢書
振替 大阪北區梅田新道
電話 北區三三三・五七二番

地代論史

堀 經 夫 著
定價 貳圓五拾錢
送料 拾四錢

金融論研究

正井 敬 次 著
定價 貳圓五拾錢
送料 拾四錢

日本資本主義の成立

堀江 保 藏 著
定價 貳圓五拾錢
送料 拾四錢

人口理論と國際貿易

南亮 三 郎 著
定價 貳圓五拾錢
送料 拾四錢

海上保險特殊問題

藤本 幸 太 郎 著
定價 貳圓五拾錢
送料 拾四錢

性格學の書

中西 章

「でしやばり」「心臓が強い」「神経質」といふやうな各人の性格について性格學者が先づその類型を立てる方面に主力を注いだのは極めて自然である。しかしその方法が如何なるものであるか、その書で無視されてゐる程(文面では全く無視ではないやうに云ひ廻されてゐるが)價値がないと思ふ。少くとも生物學における分類の成り果に照しても、元型的な分類がもつと積極的な主張され、

進んで實行さるべきである。同時に力動的な性格研究への展開もつと即時的に具體的に示す必要があると思ふ。その點「考へ方」を示すのがこの書の目的と言はれるもの、一般ゲタルト理論殊にトポロギイの性格研究方面への單なる適用に止る観があるのは不満の感なきを得ない。それだけにゲタルト理論一般の解説としては、如何なる種類の讀者にとつても、とは言へないが、好適ともいへやう。

現代英文學の課題

片岡甚太郎

現代の英文學を論ずるもので、歐洲大戰を一つの基準としなすのは稀であらう。と云つても、これは必ずしも大戰そのものが英文學を本質的に變革したとか、英國人の思想が根柢から變質したとかの意味で言ふのではない。唯あらゆる文化面において諸國間の交流地點と云ふか轉向點といふか、大戰のもつ意味は必ずしも外皮的では無かつたことを意味する。例へば、世紀末の世界苦悶は英文學にあつてもそのまゝ現世紀に受け継がれ、それが何等かの解決の曙光に近づかうとしてゐた。先に大戰即ち未だ絶頂であつたとは云へ

の動機となり、その四年半に亘つた劫は、英國人とつてはたゞ焦燥と不安と、あらゆる思想の中絶と來來としたにとどまり、その後平和來と共に僅かばかり思想の平靜と信仰の餘裕を取り戻したけれど、それが新しく何ものかへの建設的な努力に向ひ始めたのは戰後十ヶ年近くの一九二五年又は一九二六年の頃と一般に考へられてゐる。英文學が僅かながら再び昔日の健康を取り戻したのはこの頃のことであつたのである。即ち未だ絶頂であつたとは云へ

新聞の認識

岩田藤一

社会にはあらゆる事件がある。そこには「時代の流れ」則ち現代を認識する所謂新聞がある。現代特有な思想、社会状態を表現する新聞は吾人の社会認識機關ともなるのである。かゝる故に吾人がこの社会より新聞を失ふ事により盲目となるのである。

新聞は社会現象認識の時間的空間的限を越え、動いてゐる地理、生きた歴史といふ事も出来る。則ち新聞は「時代の流れ」である

すると新聞は日刊により世界のすべての事件を連続的に集めて、整理され、確認され、認識されるのである。これまで圖式化されるに到つて始めて客観的眞實が認められるのである。

斯くの如く見るとき、吾人の得たる社会的知識もこの新聞による圖式化された眞實の疑われぬ社会である理由である。故に新聞は眞偽のストロフであり、吾人の知識の中にある誤謬である。と考へると新聞は或特定利得者のために作

農民文學の方法

船曳永太郎

世の總べてのものに流行がある以上文學にも一種の流行的なるものが現れて來るのは動かせない事實だ。其一つの現れとして農民文學が挙げられる。農民文學が提唱されたのは決して早今事ではないがそれが一般化されたのは最近の事である。農村なり農民なりを内面的に再検討する意味に於ても、又農民を自ら體に於ける文學的價値からしても農村文學に視野が向けられたのは有意味な事と思ふ。

そんな意味から私は、此所にレイモンド(ラレイヌ)の『農民』(スラウ)の『農民』を第一に紹介し出度い。この作品は今般に吾國に紹介されたものではなかつた。が彼の此の作品がノーベル賞を得たから再び吾々の前に偉大なものとして浮び上つて來たと云ふ風な觀念のもとに之を讀み度くない。ノーベル賞の作品と云ふ表

面的なものに第二義的なるものである吾々の注視が農村に集中されてゐる今日、吾々の必讀書の一つとして「農民」をあげたいと思ふ。

レイモンドは一八六八年その頃のロイヤル領であったポーランドのロシヤウイカに生れ、家は裕かではなかつた。(私はこの作品の事を書く友人に話した所、全然素人の文學だからと云ふ一言で、はなつてしまつた。が彼は素人ではなかつた。彼が素人であるのは絶対的な文學人であるのだ)彼の生涯は生れた處とは反對の花の都りで過された。然しそれまで彼の生活は、牛の畜をしたり農耕の助手、見習、修業生活、等をなし、彼の作品は彼の生活から削り出されたものであるだけに迫力がある。「農民」に出て來る牧師は彼の見習の経験が描かれたものであり、水車屋を描いた

彼の父は風車小屋の持主であつた。そう云ふ風に彼がその作品を脱稿する上には彼の少年時代の生活がペンによりよく走らせたのかも知れない。

純土の色、物憂い冬、凍冷な大氣、等、巧敏な叙述は讀者をして感嘆の聲をあげさせないではおかないであらう。(今の所第一部「秋」と第一部「冬」だけ譯出されてゐるので全體的に云ふ事は出来ないが)物語りは、秋の牧場を背景にした地主ポーリナ家の描寫から始まつて行く。レイモンド自身があつた人間性の弱さ、甘さを持たせてポーリナの地主としての風格がよく書き現はされてゐて、讀者をしてポーランドに來たかの感を抱かせる様な所もあり、又全然第三者の立場よりそれを批評して冷徹なまでに押下けてゐる點もあり、吾々はレイモンドの自由自在の筆力に吾を忘れる程である。

吾々の視野の中にある農村は、調て所謂都會的な複雑さはない、がしかし自然現象の持つ、光、色、匂をみる時それが如何にデリケートなものであるか、私は農村の持つ、

人の意識の内存在する假構が眞實であるといふことが出来る。新聞に出された事實が眞實であり、けい入れるのである。則ちこれに對する主観的判斷が乏しいからである。

斯く見るとき社会では社會化された世界則ち圖式化された新聞が眞實の世界といふ判斷の標準として採用されてゐる。そのためこれを支配するものも或場合當然判斷に誤りがある。吾人の認識の對象たる社会も經濟的、意識的、内容的に限り人間の解釋の世界的に過ぎない。則ち新聞の解釋は認識の概念をもつてされる。そこには又多分に經驗的内容が含まれてゐる筈である。換言すれば吾

に紹介するに詳にして、此點がいたく稀薄であると思はれるともあれ、これだけ込み入つた内容の論議を、ポケット版二百七十頁の「教育文庫」(弘文堂刊)に盛り上げた手際は驚嘆の外はない。批評はたゞ文學だけを取り出して行はれることを許さないし、況してこの時代の轉換期に於ける錯綜せる文化價値の問題は益々見透しが困難となつてゐる。偶々「マキエリ」の二月號にはレイモンドが、この混濁たる世代にあつては既に指標を認見する熱意を失つたと云つて過去十六年に亘つて主宰して來た「グライテリオン」を投げ出してしまつたのを思ひ併せるとき、深淵氏のこの著述がもつと平明なスタイルではあり得なかつたことを感領すべき得るであらう。

つそれ自身に氣付かないで都會的なものに走らうとした私自身が恥しいやうな氣になつた。

最後に、レイモンドのこの「農民」に於ける自然描寫と、ポーリナ家の内情、及びロイヤル家の美を驚嘆すべき手帳で描いてゐると云ふ事の外、吾々はこの作品より、現代の吾國の農村作家群にも何等かのヒントを當然得るに違ひない事を信じ、又吾々の農民文學に對する水準も高められるであらうと信じて筆を擱く。

「青」

寄贈愛護と叫ばれつつある昨日の頃、戦時體制版なる出版物の氾濫は正に大騒カタルである。名譽無きものか、ミルは難書とされて居たが、その經濟學原理が戸田正雄の手で完譯された。平易な譯文だから食べやすい。試食をすむ。

農民文學協會編輯發行の十四年度版「土の文學」年鑑。この生きたヒューマンズを賣るフテブテブは、一考ものである。とママ顧問の有馬氏へ。

神山潤の長篇「歴史」は、古き素材の中から新しきモラルを教へるもの。彼が認識の據點は長戰下の今日、にんげんの本能のたうつ一篇である。

見見の短篇集「求心力」は、裝幀が立派だから買ひ給へ。と皮肉られても文句の云へない連中が居る。

て、學生の意見發表となり、學生輿論統一を行ふものとなる。かく見るとき、この特殊社會にも全面的生活に忠實に反映するものである。この事は學生新聞の機能とも云ふ事が出来る。學生が社會的に特殊の地域に置かれるとは云へ、現今の如き社會状態にあつては、今後追々或程度遠く社會的態度が包含されて行くものである。然しその内にも學生としての本來の義務を忘れる事の出来ないものである。

かく述べるとき、諸君の學生新聞に對する認識は如何程にまで發達してゐるであらうか。然し學生新聞に對して支人的批判はしたくない。――(以上)――

岩田新書の近刊廣告中に天野貞祐の「學生に與ふる書」がある。事變を契機に學生は多數の「書」を與へられて來た。然し學生は前と一緒である。それなのに親切な連中はまだ何かを與へようとする。廣大無邊の大慈悲か。ナムアミダブツ。

之も事變を契機とした話だが、古本の高くなつた事はイミチキ程。書籍の關係云々と經濟科の學生はうそぶくが、恐惶である。と毎々感ずる。

力 關大生ノ 校外食堂 力

美味ト 榮養ノ調理

關西大學 學友會共濟部 指定

圖書出版 高級謄寫印刷 關西堂

プリント

大阪市東淀川區長柄中ノ二 關西大學 正門前 電話掛川(36)二一七七番 攝津大國一四九八二番

名物 天下 成金饅頭

こるし いざんせ に談會御

省級天福館北 上雲堂

受驗・就職用(一) (御婚禮に) (御宴會に) (御集合に)

前館 五 天 井

大阪府東淀川區長柄中ノ二 關西大學 正門前 電話掛川(36)二一七七番 攝津大國一四九八二番

新學期の服装は 祝御入學 是非當店へ!

前部門專大關 *店服洋村濱*

文藝



リアリズムの批評的性格

木村武

「文學する精神とは反抗の精神である」この古い金言の場合、其は、吾々が識らず識らずの裡に捕はれてゐる概念、特に其時代に於て常識と呼ばれてゐる様な一般通有の概念の裡に存在する虚偽に對しての反抗である。この様な虚偽を横切する事は、今日の眞實が明日の虚偽である。歴史の流れに於て屢々あり得る事である。かかる常識への反抗に、人類の文化を促進せしむる動機が存在する事は、今日何人しも疑ひをいれぬ事柄である。一切の文化運動(文學、演劇、その他)の新しい出發點は、以上の舊き虚偽に對する反抗に於て價値づけられ、又、眞に新しいのである。執拗に眞實に食ひ下るリアリズムは、虚偽に對する戦ひの中に、文學又は演劇本來の批評的性格を發揮する、文學に批評性を持たすと云ふよりも、文學それ自身が批評的性格を有するのである。

即ちリアリズムの批評的性格とは或る種のイデオロギーに藝術的形象化を爲すと云ふが如き作爲的なものでなく、藝術家が虚偽に對してたゞひない嫌惡を感じることである。同時に又藝術家本來の批評的性格としてのリアリズムの精神は、客觀を描寫する云々の風の藝術技法上の一様式ではない。遙かに積極的な含意を抱いた、高揚せる精神である。今日の時代は一般に文學や演劇が低調にならざるを得ない時代だと云はれる。歴史の荒波を他所に避れ、藝術氣質でもって、自己の作品に專念し得た時代、又は政治的に殉教者なポーズをとることが容易に生功ひを感じさせてくれた時代には、此の様な低調さはなかつたと思ふ。否、今日だつて少しも低調でない、と言明する者もあるが歴史に不感症な文學は今此所で、問題にする必要はないと考へる。此の様な時代に尙文藝に執着する人間が存在する。文學青年が今日程輕蔑される時代も珍しい。或る程度に輕蔑されていゝ時代なのである。吾々がこの反省をなすつゝも文學に執着してゐるのは、文學に精進することが正しいとか正しくないとかの倫理や義務観から來てゐるのではなく、種々な過去を背負つて現在生きてゐる各自の人格が何としてでも、演劇をやつて行きたいと云ふ意欲に流されて了ふのである。かかる意欲を彼等の甘さだと云ふよりも、もつと運命的なものを感じる。そして明日の文學が、この運命的な少數を母胎とする外はない程度に吾々には生命の火を保存する能力があるんだと考へる。文學そのものの悲劇的形相が、そのまま文學にたゞさはる各個人の悲劇なのである。吾々が、自己を投げ出しての演劇實踐が客觀的にはチヤチヤ遊戯に止らざるも、何所へも文句の持つて行きどころのないことを何人よりも先づ當の吾々自身がよく知つてゐるんだから、今日の時代に文藝に精進することの是非論は問題にならぬ。則ち藝術實踐が絶滅しないといふ現實、書くものが書き舞臺に立つ者が舞臺に立つの境地は、書けぬ者、立てぬ者の論議の外に在る。

リアリズムの精神は、その批評的性格をもつて文藝に關係する吾々の歴史に於ける位置に就いての反省を促す。多くの思想を識つてゐて、一つの思想すら血肉になし得ない吾々の不信用をイデオロギーの展覽會や、物欲しげな看板だけで恢復し得るものではない。藝術とは總て人生に感動することになりたつものであり、眞に感動さすものとは、吾々の直面する眞實をおいて他にはない。新劇を嫌ふ觀客を、これを觀客の低さだなど、已惚れてはならぬ。何々主義が作品の功罪を決定するのではなく、リアリズム精神の高底が一切の規準になる。安易に受取つたイデオロギーや概念で、現實の感動を蔽ひかくしてゐる演劇が、演劇實踐とは何の關係もない幾多の理論に武装されて、「社會的」の看板をかかげ威張つてゐる事實に駭かされる。若し幼稚な社會科學や粗雑な自然科學を舞臺化する技術を演劇とし、演劇藝術家はたゞ意圖な精神の持主はなからう。社會科學的な概念の器に現實を歪曲しておこもるとすることこそ、個人に於て爲される、感情、自我的な作品ではなからうか。「思想の統一」とは極端な思想の貧困を代償として得られる。――ジイドの生命をなすものは、かかる安易なき懷疑的精神としての不拔なリアリズムの批評的性格である。

今日の文學青年は何人もトルストイの婦人觀を容易に反駁し得るであらう。けれどもトルストイ程の藝術家はさうさうに生れるものではない。バルザックは觀念的には自己を貴族主義を以て任じてゐた。しかも彼がその作品に於いて貴族の敗退と市民の勝利を如實に描き、當時の歴史を明確に示したものは少い。彼等が藝術家として眞に偉大なのは、彼等のイデオロギーだとか何々主義に依るのでなく、その作家としての切實なリアリズムの精神を逞しく育て、眞實の追求に力をゆるめなかつたが故である。社會科學に頼つた藝術實踐の甘さを指摘したい。藝術實踐に臨んだ場合、藝術家を衝動するものは眞實追求のリアリズムの精神であるのみである。藝術家が個人的なものであるが、社會的なものであるかを區別するものは、作品の材料が社會的であるとかないとか云つた事に依つて決定されるものでない。藝術家を含めて總ての人間は個人である。Aと云ふ個人はBやCの存在に依つて社會人となる。BやCに感動を與へる作品に依つてAの作品は社會的なものになる。社會的な理論の受け賣りである作品に、何人が感動してくれるだらう。それがAと云ふ個人に於いてなされた個人的な、甘つた自己慰安的な意圖な作品なのである。藝術家製作するものは常に個人である。従つて藝術家本來のリアリズムには「個人的」なもの「社會的」なものはない。リアルに徹してゐるか否かの「濃度の差があるのみだ」



椿落つ玻璃窓くもらせ白粉を刷く

みちちを

私はこの作品が世間で云はれてゐる様に立派な藝術映畫とは思はない。寧ろ彼ほどの才氣を以てして原作者アシェルの卑俗さを蔽ひつゝしてゐないのを面白く感じたのであるが、フランス一流の大作家といはれるデュヴィエのエスプリといつたものがその卑俗さを貫いて鋭く出てゐる事は矢張り彼の眞實の面々ならぬことを物語つてゐると思ふ。更に彼の演出には常に一種のケレンじみたものを感ずるのだが「望郷」はその題材と演出スタイルがその意味に於けるものではない。

「望郷」のラスト近くで見せるベレのバスターのスクリーンバックの如く他愛なく切愛えられて行く背景であるが彼の鋭角な意圖は單に技巧と云はれない映畫作家のメチエにまで昇華されてゐると云へる。何故ならば彼の描き出す「人間」そのものは一向に變つてはゐないからである。カナダの雪に埋れた男モロッコの熱砂を體一杯に浴びて死に果てた男、唯一つの希望たる船出を前に志を別たねばならぬ男……そして「望郷」のベレにしてからが明日の希望と今日が一日を止むな生きたら途には挫折し果てねばならぬ弱い小市民の感情を身につけた人間に外ならぬ。早い話が全篇スクリーンバックの如き手法で通した舞臺會の手帳にしてからが未だ見果てぬ夢を追つてさまよふクリスチエの危しい夢がフランスのあらゆる景色と生活の群像を背景に浮彫りにされてゐるのである。運命的宿命と云はれたいやうなデュヴィエエはそのめまぐるしい背景の變遷の中に人間の一人一人を丹念に刻込んで來たのである。藝卒にも彼を「風景作家」「風景畫家」と呼ぶならば清水宏の所謂眞精神をその人ほどのやうに解するであらうか、いま敢へて日本映畫の缺陷を云ふならば、日映畫の架空たる背景を餘りにも知らな過ぎることであらう。「個性はかれが何をしてゐるかといふことによつてだけではない。さらにそれをいかにしてゐるかといふことによつて特徴づけられるのだ」――バルザックのこのことを映畫「望郷」はわれわれに提示する。(五、十)――カットは「望郷」――

大協 移民以後 都賀 稜

新劇通信

大阪協同劇團：七月公演はテアトロ入選戯曲「水龍脚前」(多田俊平同話二月號所載)演目も多田俊平氏と決定――

新劇通信

大阪協同劇團：七月公演はテアトロ入選戯曲「水龍脚前」(多田俊平同話二月號所載)演目も多田俊平氏と決定――

春の花束

大協と語る會

★新聞部主催★

関西の学生界に於ては、何故か新しき時代の教養たる新劇運動を等閑視し其認識も嘗ての
プロレタリア演劇の如き公式的煽動劇の域を出ない程度の舊弊なる考へを以て嫌悪するかの
感を示し、斯る文化運動から如何に遠なる存在であるかを立証してゐる。此處に於て
本紙が新劇運動を理解しようと試みたことは、蓋し関西学生新聞界の一異彩たるばかりでな
くその活動は漸く東部新劇界の嚆矢となるものとなつたのである。今、更に筆陣を強化す
るに當り大阪唯一の新劇團である「大阪協同劇團」と本紙執筆者の諸先輩を招待し春宵清
談の一席を設けて紙上を飾ることとした

山際 お待たせしました、では
まつく 始めに頂きますが協同劇
團の方がプロレタリア演劇は
ヤラチオに關係されてゐるの
で今夜は木村、木下、岩田の三氏
しか見えられないとお断りがあ
りました、三氏は既に御承知の如
く協同劇團では著名の方々です
本日の出席者も御承知の如く事
存じますが御座いますか
まつく 時間御座いますか
まつく 御座いますか
まつく 御座いますか

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

指してゐるのです、そうした意味
で大きな一つのテーマを持った脚
本をとりたいたのです
眞島 対象が異なつても大衆
それ等自身の中に新しいものを求
められたいのでせうか
木村 前進座の様に新しいスタ
イルのものや歌謡伎を併立するの
も一つの行き方と思ひます
まつく この邊りは稍都合が噛み違つ
たが大協としては必ずしもレバ
トリシステムに固定せず自
由な選んで行く事で眞島氏よ
り中心人物をもつと歴史的社會
的な廣がりやに這下げるべきだ
と要望して一しきり脚本に關し
て返さふ
六車 脚本の公費はされませ
んか
木村 まだ公にはきまつてゐま
せんし、もしきまつたとしても何
等限定を設けないが、唯大協の趣
旨に沿ふものが欲しいと思ひます
眞島 脚本に就いては交換でもす
るといふやうなグループが出来ま
すか
木村 目下のところそうした案
はありませんが、常に心がけてそ
うした人と接觸してゐるし、個人
的にも接したいと思ひます、
眞島 作家は大いに歓迎した
と思ひます
六車 今後どんな脚本をとられ
ますか
木村 具體的には五月に移民以
後をやり度いと準備中ですが今年
一年がかりで五代友厚を秀村君や
岩田君と共にまとめる心算です
岩田君が少いので困つてゐます
それに「あらがね」我等も豫定し
てゐます、劇團の方針としては劇
作もで行きたいと思つてゐます
まつく 五代友厚は松竹下加茂で浪花
女として演習監督が準備中で同
監督の方針としては五代と三人
の女を中心とするらしいが木村
氏はもつと視野を廣げて五代を
中心にする模様で、風聞によれ
ば新協劇團も採ららしい、維新
時代と經濟都市大阪の關係は昨
今かなりジャナリズムにも注
目されつゝあるが、これに關し
しはらくは大協と大阪物の應接
の時を過す
東 地方色をうんと出して欲
しい
森宗 さうした大阪物を郷土劇
團たる大協に期待します

宇都宮 大阪にはいゝものがた
くさんあると思ひますね
木村 大協としてもさうしたも
のをやり度いと思ひますし五月の
移民以後の言葉など原作は大島言
葉が主ですが和歌山方面の言葉に
するべく暫く旅行をしましたし電
車の中なんかでも乗客の會話にあ
らためて注意したりしてゐるん
です
まつく 大阪言葉にはなかなか面
白ものがありますね、私も色々
調査したいと思つてゐます、小説
にして大阪の出現世の觀が
ありますね、それに劇文學にして
も大阪ものは皆無だと云へます
木村 関西には作家が少いので
その點大協は恵まれてゐません五
郎の五郎劇のやうになる強力な新
劇を作るにはどうしても劇團の文
藝員の充實を待たねばならないの
です、眞島、坪内の両氏にしても
特に大阪を意識してゐなかつたや
うです
まつく これから寸時は大阪人につ
いて種々の感想が出たが、酒肴も
計らつて記念メナツプを撮るべ
く席を離れ、一しきり和やかな
家園氣に賑はふ
山際 失禮しました、大分氣勢
が上つて来た様ですが、さうして一
つ今までの公演に就いて話して頂
きませう
木村 木下君がさうですから
……大體あの劇は協同自身あまり
自信はなかつたんです（笑聲）
……だかんだと云つて結局公演日
近づいたので、有りあはせのたぐ
いしたものはないんですかと奇問
を發した
木村 さうですね、別にこれと
いつたものがないんで、大體公演
が内幕で、これは眞に見られた方
には申譯ないことですが（笑聲）
それでも観客は薄くさん入つたん
です
まつく 誰かが大協の十八番劇とい
つたものはないんですかと奇問
を發した
木村 さうですね、別にこれと
いつたものがないんで、大體公演
が内幕で、これは眞に見られた方
には申譯ないことですが（笑聲）
それでも観客は薄くさん入つたん
です

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

木村 資料の努力は不足してま
した、それに手頭の研究本がなく
た、一冊五圓の本一つで片づけま
した、こうした方面に専門家が居な
いのですから不便です
眞島 たくみと戀は相當なイン
テリでなければよくわからないし
もつと具體的な演出をすべきであ
つたと思ひます
岩田 岩田氏が苦惱する時、出
て来る群衆の百姓達と結びつけよ
うとしたがそれが出てゐないのは
演出の失敗でせう
木村 たくみと戀には大衆性は
なかつたですね、集中宣傳をもつ
とやるべきでした、もつとも一律
な宣傳は観客層が違ふので危険で
すが、フェルチナンドの長台詞
は遊離してしまつたが新劇ではい
ないことです、といつてカットも
出来なく勢ひ演出者は象徴化した
譯です
岩田 新劇の行き方としては劇
作の第一の例へばデッドエンド
の内容で行くものと、もつとは
レパートリーで行く二つの態度が
あると思ひます、どちらにして
も日本版なものでいいものを採る
のは勿論必要だと思ひますが……
眞島 政治的でなくとも一つの
イデオロギーを持つと矢張り魅
力を感じますね
木村 たくみと戀にしてもイデ
オロギーにしろ大協的リアリズム
にしろ全然離れてゐるとは考へら
れません、こなし得ない場合があ
つても、それは明日に待つ外はな
いと思つてゐます、北東の風に木
下君と一緒に演習する場合アンサ
ンプルを出すまでにはどうして一
ヶ月の滞在を必要とするんです
併しやれない理由はないと考へ
ます
眞島 その場合演習の同化とい
ふ危険があるんじゃないでせうか
木村 同化が危険であればせうか
だと考へれば悪いとは思へません
東 東洋の津兵衛学校では黒川君や花
井君とつき合つてゐます
安藤 そんな時には色々な苦心
をされるでせう
木村 沼津の場合など、奥さん
役として昔の作法などに苦心しま
したが、なんと云つても映畫の演
技は芝居と違つて斷續するので一
貫した氣分を持続するのには窮りま
す、それに撮影は芝居よりも遙に
きつ労働だと感じました
山際 新劇人が映畫に出る場合
單に經濟的ではなく演習そのもの
を映畫的に分析することが今後必
要と思ふ、例へばデッドエンドの
マーチン演習の背面的演技は舞踏
會の手帳に於けるルイジューベに
共通するものではありませうか
……これからは映畫論に花が咲い
た演技ではデッドエンドの演習
は失敗だと意見の一致を見たの
は注目するに足る
小林 大協場へ進出する場合、
アクションが大きくなると新派的
な演技に進み境界がなくなりまし
ませんか
岩田 その場合演技の大きくな
ることは認めるが、その事が常識
主義に流れるとは思へません
小林 演技の新派的リアリズム
がアクションを知つてゐる爲にオ
ーパワークになると思ひますが
……この場合も主として經濟的
理由が存在し居ると見られるが
大阪にいい新劇の劇場が無いこ
とを惜む聲がしきりに起る、そ
こでスターシステムと新劇のア
ンサブルに就いて疑問が出た
眞島 新劇の人情味に就いて新
派との區別は
木村 新派は明治時代に新時代
の根分として生れて當時は川上氏
が中心となつてゐた、兎も角其等
の人達は大部分自分の生活の感情
に於けるものと、だが現在は例へ
ば花柳草太郎氏の形式的な美事に
ひかされる考へる、観客はその
人の所作について観習するが新劇
は劇の内容が生活に訴へるので、
藝から来るのではなく内容から來
るものでなければならぬ、それで
新派では重要な俳優が居なくなる
と思ひます
木村 新劇は當然うまい役者が
主役をやるといふ風に考へてゐま
すが……
眞島 新派的にやつて行くことは
やりにくくないと思ふ、興行的に
もね……
木村 後者の場合例へば木下君
を賣出す一つの行き方ですが、
大協に對するファンをこしらへる

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ

山際 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ
森宗 僕から始めよう、これは一昨
年本紙の森宗氏からどうぞ



秋元(右)の十四氏

新劇特輯



新しき意識

紅子文

山添 えい。それに僕の仕事も、この事變で一頓挫してゐるんで...

大槻 そりやもう、誰でも経験してゐるんで...

山添 「この種の仕事には、政府が補助金を出して呉れても...

大槻 放つとけないのは、農村ばかりぢやない。みんな、みんな...

山添 昨年不幸せと豊作でしたから、まあ大した打撃も受けず...

山添 昨年不幸せと豊作でしたから、まあ大した打撃も受けず...

かた。國家の生活は個人の生活に從屬し、國家独自の生活は...

個人生活よりも國家の生活こそがより重大な問題として立ち現はれたのだ。

これは一片の劇中の會話として済すことの出来ない生きた現實的なものである。

この出来事、その有るもの、その至るべきところ、その至るべきところ、その至るべきところ...

且また、この意識への要求はこれら新しき意識を生む所の地盤が既に與へられてゐるが故に起るのでないからである。

従来までは個々の人々が個々の人々として生活し、行動し、しかも...

従来までは個々の人々が個々の人々として生活し、行動し、しかも...

は協同的意識、意識の協同性にあるのだとも云へる。しかし、新しき意識が要求され、生れるに至ることがこの生活の協同性から由來するとしても、このことを以て直ちに現實の協同的意識が眞の協同性を完ふしてゐることを意味するものとは云へない。

香雷の牧師傷兵にがたと捲れ 外人牧師顔の白さに身が軋む 外人牧師ぶつぷつペンキ新なり

城東線素描 薄晚秋

現實と理想とが矛盾してゐるが故に恒に新しき意識が要求されるし、又されざるを得ない。

國家は今、戦つてゐる。戦争とは國家そのものの生活が存亡の機に直面してゐることである。

國家は今、戦つてゐる。戦争とは國家そのものの生活が存亡の機に直面してゐることである。

國家は今、戦つてゐる。戦争とは國家そのものの生活が存亡の機に直面してゐることである。

國家は今、戦つてゐる。戦争とは國家そのものの生活が存亡の機に直面してゐることである。

でも、しかも一般民衆は物價騰貴と消費統制の切りつめられた生活の中に苦しみをもつて闘つてゐる。

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三



木蓮落ちて青竹を折りたりをみ

夜明け前 観劇メモ 毛利 札

「島崎藤村原作」はその變革期におけるさまじきこと、特にインテリの奮闘を教へてゐる。

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

「夜明け前」を観る... 安藤禮三

上向位體 非常時下の 日本體操大會

關西大會に本學初參加

大阪朝日新聞社主催、第五回日本體操大會、關西大會は来る十四日甲子園球場に於て、花々しく開かれたが、本學より初の參加である、時局柄特に祝すべきであり、之に試験と経験を待、將來大いに期待する所があると考へる

現在我が國に於いては所謂競技的スポーツが全国的に發達し、殊に學生スポーツは、世界のいづれの國々にも劣る所ないまでに進歩したのである。然るに近時未曾有の非常時局に際し、國民全般の體位向上が叫ばれ、此の度の如き體操が開かれる事となつたのである。今斯くの如き運動が、世界の國々に於いて如何に行はれてゐるかを見るに、友邦ドイツに於いては「クラフト、ドルヒ、フロイド」運動といはれ、所謂アルバイト、ドイツの喜び、勞働による楽しみを、全國民がその勞働へのいそしみを必要とするところから起つてゐる。

イタリーでは「ドボラポロ」運動と稱し、勞働後の慰安の樂しさを味ふべき權利と資格を有す、との思想で運動を行つてゐる。

アメリカに於けるこの種の運動は、プレー、グラウンドの運動より必要にせまられ、學生省の主權による學生運動などが起つて來た。今度の體操大會も之等の思想のもとに、體操を目的とする團體を主とし、總ての階級を組んでゐる。可憐、明朗活潑、爽快すべて、勞働後の慰安、體操の樂しみを全國に普及せんとしてゐる。

當日の運動はその一端に過ぎないが、之が將來への期待は深々たるものがある。

本學でも五月六日皇清宣揚會主催のもとに敬神崇祖、學生全般の體位向上を目的として、反正天皇御陵、仁徳天皇御陵、百舌鳥八幡大鳥神社を徒歩巡拜した。意氣凛々たる學生には、又殊にスポーツを以つて誇る本學に在つて、斯る運動の効果を以ては全く微々たるものではないが、併し之らの如き團體的行動による精神修養、加ふるに、スポーツになじまない他の學生の體位向上といふ事には、全く重大なる意義を有すると信ずる。この運動によつて學生生活に大いなる餘裕を生ぜしめて初めて、その効果があるのである。都

低調な運動部に示す ホッケー部の意氣

關西リーグ試合に備へ猛練習 全國高専

我が關大スポーツ部は在つて、比較的その歴史の新しいホッケー部は新年度に多数の新入部員を入部せしめて、来る五月十四日より始まる關西リーグの覇權を得んと目下猛練習中である。

今年には超オリンピック級の選手を四人も送り出したその後のその苦心たるや大いに苦しいものがあるのであるが、併し新メンバーにて戦へる戦跡に依れば、決して

て劣つて居ないものと見る、對立敵隊には5対4にて之を破り、又OB戦に於いては全く之を一蹴し7対0をもつて大勝してゐる。之を以つて見てもホッケー部が如何に猛烈な練習を重ねてゐるか

がうかがはれるのである。我スポーツ部が近年低調になりつゝあるその中に燃然として輝くホッケー部よ、大いに自重して今後の練習に躍進せられよ。

惜しくも第二位 チームワークの差

大阪學生 春期リーグ終る

大阪學生リーグ體操試合は大阪大全勝の後を受けて四月二十四日V.M.C.A.でその優勝戦が行はれた。結果は

商大56 (19-15) 47關大

で惜敗した

關大の敗因は勿論實力の差異ではあらうが、一方試合初頭よりチーム全體に活氣がなく、戦法の變化に乏しく、加ふるに商大の氣魄にのまれ、或は商大の突撃戦法に依る作戦の妙は、完全に之を壓するものがあつた。

前半の試合は後半へ

の餘力を残した爲め、兩者とも戦状態のまゝ後半へ入つた、終始十人のプレイヤーがコートの中を

打倒立教へ

秘策に關大陣

米式蹴球 對抗戦於甲子園

關西に唯一の我米式蹴球部は、昨年來期以上の活躍により法大を破り、立大、慶大とは互角の勝負をして來た。今年度は三人の卒業生を出したが、藤本新主將を中心にチームを刷新して、燃ゆる意氣高きものがある。秘策に練習にはりきつて頑張つてゐる。併し「昨秋は昨秋だ。今春は今春、必ずや勝て見せる」と其自信を披露した米式チームが記者に攻められた。記者は「記者に攻められたが、如何なる手段によつて立教を破るか、その秘策をこゝで發表することは差控へるとして、お手並は試合日拜見しやう。(十二、記)

向今月二十一日、六月一日には強剛早大及、慶大との試合が行はれる。

歐洲遠征豫選へ 大室君出場

五月二十日明治神宮で本年歐洲遠征への豫選大會は、來る二十日明治神宮競技場に於いて行はれるが、本學より大室君が出席する、大室君はジャンプ王國日本の戸上氏の後を背つて立つ選手で、本學の名譽は勿論、日本代表として、歐洲への輝かしい活躍を期待されてゐる。

九ヶ年連覇成る?

傳統誇る 陸上部

於甲子園 五月廿七、八日

想はば昨年戦前の豫選を見れば、切り否、裏切るの不安の一言を以て足る必然の勢ひを以て八ヶ年連覇を遂げたのだ。其一中中權を爲したる、戸上、谷口、川手の世界的選手並びに櫻代、安井、市川、諸兄の有力選手を送り、此處に吾が部の一大懸念を感じさせた

會の真中に在つて、運動場を持たない本學學生の體位は、當局の計る所であるが、それに反し餘りに、學生自身の參加の少い事は全く、惜むべきといふよりは、國家の將來に大なる懸念となるのである。願くは諸君が大東亞を興すに自信のある體を、國家の爲に、作らうではないか。

全國學生選手權大會

本の上田氏を送つたと云へども、先に、日滿對抗に日本代表の一員に加はり、大室、益々勇壯に活躍するであらう。その補充者に白井小倉、青木、山本の奮闘でジャンプ陣も依然としてその功業を輝かしてゐる。

投擲に林、大橋のコンビは元氣に思案なる兩君のその努力こそ、本年も亦、依然として關西を壓することは言を待たない。大室の高騰、中陣の鈴木、直原、石脇の活躍、ハイジャンプの白井、安井も大いに實力を發揮し吾が關大陸上部の九ヶ年連覇を遂行するであらう。(陸上競技部記)



ランチ 眞選夫人 双生児を生み落す

若人よ來れ!

カワイのオツサンが待つて居る

日本橋一丁目交又點

河合洋服店

電話南三三八一

給品部 (學用品)

山本靴店 (新調理)

校内食堂 (榮養!)

祝御入學

心ブラのオカヘリに

是非!

◆喫茶◆平野屋

十合大丸前バス停西